

養蠶の先進地

静岡縣をのぞいて

木田藤次郎

前静岡縣引佐郡農會技手

我國に於て養蠶縣と稱せばに養蠶教育の旺盛縣であつて第一に静岡縣、長野縣等の事が窺はれる。

群馬、福島等の縣は、

折らねばならぬ。就中、天今から千二百年前和銅年間

女舞衣が松原の松に引掛

後行はれた如くあるが

其の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

その後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕

後赤熱、復古後の又昔

蚕都、杉崎、光白、寶東、島、群馬、山梨等からも

龍馬等があり、明治廿五年

頭から春蠶に中糞や銀白が

れども當時蠶種と繭の產額

は未だ大した事はない、統

計として現れたのは明治十

一年蠶種九百四十八枚、養

野田姫、角又大糞等で、明

八年以後はたゞ一百四十枚

又、夏秋蠶に大和錦

日本錦、大草、白飛白が加

清水の次郎長親分の出た土記の記書に

小ぐみ、かやみ、かやみ

在り來たりの自家用蠶の譲

り合ひ位で單に、きまゆ、

昔の如きが信州地方から來

其頃静岡縣に之が飼育され

て居ないらしく降つて天保

青熱等が今から二百年前か

で摆出した小石丸、野蚕